

ふらっとふらわーず ニュース

- 季節の花：・ヤブコウジ
・シンビジウム
- コラム：植木鉢の種類
- 情報：花のイベント

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2017冬号：第17号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

季節の花

★【ヤブコウジ】

サクラソウ科 / ヤブコウジ

「万葉集」にも山橘（ヤマタチバナ）の名で詠まれた、古くから日本人に愛されてきた植物です。小型で草のように見えますが、サクラソウ科の常緑植物です。日本、朝鮮半島、台湾、中国などに広く分布し、大きくなっても樹高はせいぜい30cm程度に収まります。名前の示すとおり山林の木陰などに自生しています。茎は枝分かれせず地下茎でふえていき、夏に小さな白花を咲かせて径5mmほどの実をまばらに付け、晩秋から冬にかけて赤く色づきます。

江戸時代、寛政年間に葉に斑が入るヤブコウジが好事家の間で人気を呼び、多くの品種がつくられました。その後、明治20年ごろから新潟県で再び流行し、明治27年には全国にブームが伝播し、投機の対象として、生産者や趣味家だけではなく一般市民も巻き込み、現在の価格で1000万円もの高値で取引引きされました。日陰や寒さにも強く、栽培も容易で、寄せ植え、おしゃれな鉢に植えて観葉植物として、盆栽に植えて古典園芸植物などのように、さまざまなスタイルで楽しむことができます。

ヤブコウジは「十両」（じゅうりょう）とも呼ばれます。他に赤い実をつける植物では、カラタチバナ（唐橘）を百両（ひゃくりょう）、お正月の縁起物として人気の高い、センリョウ（千両）。さらに大きな赤い果実をつけるマンリョウ（万両）があります。すべて同じサクラソウ科と思われがちですが、センリョウだけが、「センリョウ科」／センリョウ属「です。そして一両は、アカネ科アリドオシ属の「アリドオシ」で、葉の付け根に長さ2センチほどの鋭いトゲがあるのが特徴で、このトゲが蟻をも刺し通すとして名付けられたとも、直径1センチ弱の実が、10月ごろに成熟し、翌春までの長期間枝に残る事から、「赤い実が有の通し」として名付けられたという説もあります。昔、地方によっては、お正月を迎える時、センリョウとマンリョウ、そしてアリドオシを並べて植え、「千両万両、有の通し」と称して縁起をかついだのだそうです。「千両も万両もお力ネがいつも有り続けますよっ!」

花言葉

「明日の幸福」（花言葉辞典）

（参考：趣味の園芸、庭木図鑑 植木ペディア）



★【シンビジウム】

ラン科 / シンビジウム属 (シンビジウム属)

シンビジウムの仲間は熱帯アジアを中心として、日本からオーストラリアまでの広い範囲におよそ60〜70種が分布するランです。その中でも東南アジア、ヒマラヤに分布する花が大きくて美しい種および、それらを中心に交配で掛け合わせてつくられた交配種を、園芸では一般的に「シンビジウム」と呼び、洋ランのひとつに含めています。シンビジウムは「舟（ボート）のような」という意味です。すい柱の形が舟に似ているから、または、舟を砂浜に揚げたとき地面に残る筋模様を唇弁に付いている筋状の突起に似ているから、など諸説あります。

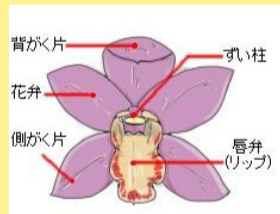
育て方

栽培環境：年間を通して日当たりがよく、より長く日光に当たる場所で栽培します。真冬以外は戸外の栽培が適します。5月上旬から9月上旬は、強い日差しを避けるように。風通しも大切

水やり：夏は毎日十分な水を。秋から冬にかけては週1、2回程度 蕾が伸び始めた回数が増加

肥料：春から真夏は固形を置き肥し、1か月ごとに取り替え、液体肥料も9月下旬まで週1回

ふやし方：株と新芽の数が増えてきたら、4月ごろ株分け
花言葉「華やかな恋」「誠実な愛情」（花言葉辞典）
（参考：ヤサシイエンゲイ、趣味の園芸）



コラム 植木鉢の種類

環境や性質に合わせて

鉢やプランターなどのコンテナ（栽培容器）は、植物の栽培の出来、不出来に大きく左右します。栽培条件や植える植物の雰囲気にあったものを選びましょう。

鉢の大きさは、鉢の口径（直径）で分けられ、通常は「号（ごう）」という単位で表します。1号は約3cmで、5号鉢なら5×3×11.5cmで、鉢の口径は15cmになります。

テラコッタは、最近では素焼き鉢の代名詞として使われていますが、本来はイタリア製の素焼き土器を指す言葉です。日本の素焼き鉢より高温で焼かれており、通気性や透水性は素焼き鉢よりやや劣りますが、装飾が施されたものからプレーンなものまで幅広く、変化に富んでいます。



素焼き鉢は、粘土の焼成温度が700〜800℃のもの、陶磁器などを本焼きする前の、釉薬をかけずに焼いたものです。通気性、透水性に優れているため、鉢土が乾きやすく、鉢内に空気が通るので栽培に適しています。

駄温鉢は、素焼き鉢より焼成温度が1000〜1500℃ほど高いもので、椀（鉢縁上部）に釉薬が塗ってあります。素焼き鉢より硬焼きなので、通気性、透水性は劣りますが、反面、壊れにくいという特徴もあります。

化粧鉢は、一般的には釉薬で仕上げた観賞用の鉢のことを指します。盆栽、東洋ラン、観葉植物などに広く利用されています。通気性がないので、初心者一般的な草花の栽培に使う場合は、多少水やり管理が難しいかもしれません。洋ランなどでは、観賞時の鉢カバーとして使用されます。

プラスチック鉢の長所は、何よりも安価で、軽量のため持ち運びが容易という点です。短所は通気性が悪く、熱伝導性が高く、夏は高温に冬は凍結しやすいという点です。

ポリエチレン樹脂製は、素焼きのテラコッタと見分けがつかないほどの風合いをもった製品が開発され、大量に出回っています。一般的なプラスチックの製品と違い、案外丈夫で割れにくいのが特徴です。装飾的なものほどほこりや汚れが付着しやすいので、定期的に水洗いする必要があります。

根には通気性や保温性・保湿性が大切なので、「保温性」「通気性」「強度」の3点セットが優れている植木鉢が使いやすいです。比較的、「素焼き鉢」や「テラコッタ」は、条件を満たしています。しかし、通気性の悪い「化粧鉢」や「プラスチック鉢」も水やり回数を減らす、乾きやすい土にする、場所などの工夫をすれば、ほとんどの植物が栽培できます。

また、水やり好きな人は「乾きやすい鉢」忙しくて水やりがしにくい人は「乾きにくい鉢」というように、栽培する人に合わせて選ぶ方法もあります
（参考：趣味の園芸、花ひろばonline）



情報

一花のイベント

- 上野・東照宮冬ぼたん
1月1日（日）〜2月26日（日） 上野東照宮
- 世世界らん展日本大賞2017
2月11日（土）〜17日（金） 東京ドーム
- 湯島天神 梅まつり
2月8日（水）〜3月8日（水） 湯島天満宮
- 春の殿ヶ谷戸とカタクリを楽しむ
3月11日（土）〜3月20日（月） 殿ヶ谷戸庭園